

中学校 C

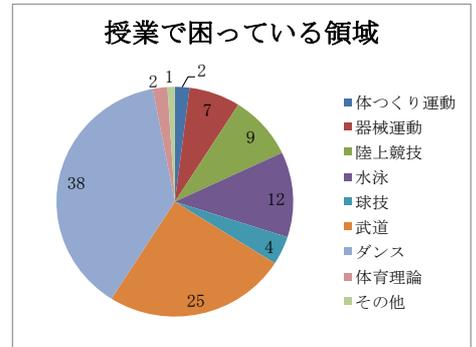
地域と関連付けたダンス教材づくり

市原 剛志 (長生) 米本 和樹 (夷隅) 笹子 竜侍 (安房)
森田 和也 (君津) 見富 浩章 (木更津・袖ヶ浦) 小森 一生 (市原)

1 はじめに

中学校Cグループでは、『自ら進んで運動に親しむ児童生徒を育成する体育学習の在り方』の研究テーマのもと、「授業で困っている」という意見が多数上がっているダンス領域について研究を続けてきた。

今年度は「どのようにしたら生徒が自ら進んでダンスに親しめるだろう」という視点で考えたとき、「地域と関連付けたダンス教材」という点に着目した。北海道には「ソーラン節」、山形県には「花笠音頭」、アメリカには「オクラホマ・ミキサー」などというように、その地域に関連した踊りがあり、振り付けにも意味が込められている。その点においても、自分たちの地域に伝承され、自分たちも実際に目にしたことがあるものをテーマとした踊りの方が、親しみやすく、表現しやすいのではないかと考え研究することとした。



2 実践例

(1) 木更津市立畑沢中学校「紅陵木更津甚句」

① 紅陵木更津甚句とは

木更津甚句とは、木更津市に伝わる民謡（別名木更津節）である。江戸期に江戸ー木更津間の海運を司る木更津船の船頭が往来の際に唄っていた船唄が元であると言われている。

「紅陵」とは、木更津市にある拓殖大学紅陵高等学校のことであり、紅陵高校が地元のアーティストへ依頼し、民謡だった木更津甚句をアップテンポにアレンジし、振りをつけたものを「紅陵木更津甚句」と名付け、踊ったのがはじまりである。

② 教材としてのポイント

歌詞の中に「船は千来る」や「狸かわいや証誠寺の庭で」というフレーズが出てくる。その場面では、船を漕ぐ様子や狸が腹をたたくしぐさなどが表現されており、自分たちが生まれ育った土地の内容をイメージしやすくなっている。

③ 中学校での実践

平成21年度から実施している。初めの2年間は3年女子のみだったが、それ以降は全校生徒が体育祭で踊っている。

④ 指導の内容

9月に行われる体育祭で披露するために7月上旬から体育の授業で指導を行う。各クラスに「ダンス委員」を配置し、練習の運営をしたり、隊形を考えたりする場面で中心となって活動する。また、「清掃時体育（畑沢スポーツタイム）」も実施しており、その中では、縦割りの系列活動として先輩から後輩へ指導を行う活動も行われている。



⑤ 生徒の感想

- ・たぬきや証誠寺などというフレーズが出てきて、イメージを膨らませやすい。(中1男子)
- ・体育祭で地元のおじいちゃんやおばあちゃんたちが見に来てくれて、喜んでくれて嬉しかった。地元の伝統的な歌を大切に引き継いでいきたい。(中3女子)

⑥ 地域の方の感想

- ・全校生徒で取り組む演舞は圧巻だった。中学生のエネルギーあふれる踊りに感動した。今後も地域を大切に思う気持ちを大事にしながら続けてほしい。

(2) 木更津市立木更津第三中学校「誇道」

① 誇道とは

昭和45年から続く三中音頭を現代的にアレンジしたものである。生徒会本部役員を中心とした生徒と教職員、さらに学校支援ボランティアのアーティストが協力して創り上げた。

② 教材としてのポイント

学校全体で取り組む“誇りをかけた挑戦”であった。しかし、その中には自覚と責任、さらにその先には達成感があり、自信と誇りが生まれた。活動の立ち上げ、振り付けや曲のレコーディングなど、まさに一から作り上げた演舞であり、地域と関連した伝統と若く新しい力が融合したダンスとなった。

③ 中学校での実践

今年度4月に、伝統にプラスし演舞を創るところから始めた。そして、9月の体育祭に向けて演舞の構成とリーダーの育成、そして練習を並行して行った。

④ 指導の内容

4月に演舞の構成に伴い、プロジェクトチームを発足させた。単純に踊るだけでなく、「自分たちで創り上げる」という意識を高めるためのリーダー会議なども計画的に実施した。そして、振り付けもまずはリーダーが覚え、それを全校生徒へ披露する集会を開いた。さらに6月下旬からは、体育の授業で練習を行い、その際にもリーダーから仲間へ伝える様子が見られた。夏休み中に学校支援ボランティアの方々へ披露しながら、4月からの取り組みを発表し、9月の体育祭本番で披露した。



⑤ 生徒の感想

- ・去年の三中音頭より楽しかった。(中2男子)
- ・全校が一つになると、踊っている方も見ている人たちも感動するのだなと思い、三中の力はすごいと思った。これが三中プライドなんだなと思った。(中3男子)
- ・この踊りは、これから受け継がれていく中で自信を持って「見てください」と言えるほど頑張って踊りきった達成感がありました。自分たちが初めての創始者でとても嬉しいです。ずーっと伝統が続いてほしいです。踊っていて楽しかった。また踊りたい！(中3女子)

⑥ 地域の方の感想

私たちが踊っていた三中音頭が子どもたちの手によって新しく生まれ変わり、今日の踊りを見たときに、三中の凄さをもっと多くの人たちに知ってもらいたいと思った。

(3) その他の学校での取り組み

名称	地域	対象
茂原音頭	茂原市	小学校・中学校
勝浦音頭	勝浦市	小学校・中学校
新勝浦音頭	勝浦市	小学校・中学校
ソーラン節	袖ヶ浦市(稚内市と連携)	小学校・中学校

4 おわりに

今回紹介した2つの実践例をまとめると、地域に関連した題材を取り上げることで、「地元につながる伝統」であったり「自分たちが創り上げる」といった思いにつながったりすることで、生徒はより親しみやすくなり、興味や関心を高めるのに有効な取り組みであったと言える。さらに、ただ決められた振り付けを踊るだけではなく、その歌詞や振り付けに込められた意味を深く考えたり、表現したりすることにつながったと考えられる。

すでにあるものを模して踊るだけでなく、しかし創作ダンスよりも親しみやすい、地域にあるものをアレンジして教材化する取り組みが、ダンスの授業を活性化する一助になれば幸いに思う。